
緋弾のアリア ダブルS

ZeroSF

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

緋弾のアリア ダブルS

【Zコード】

N9123Y

【作者名】

Zer0SF

【あらすじ】

緋弾のアリアの二次創作です。

ちょっと色々なことに挑戦していきたいです。

あまりうまくは無いですがよろしくお願ひします。

群衆の（眞摯や）

まいしへお願こしあす。

弾籠め

俺は少し特殊な流派の剣術をしている以外は、普通の高校生だった。

そんなあるとき俺は死んだ。

死因は覚えてない、よくある交通事故かもしれないし、病気で死んだかもしれない。

それすら覚えていないし、覚えていなくてよかつたと思える。だつて誰だつて自分の死ぬ姿なんか覚えておきたくないだろ？ なんでこんなことを言っているのかと言つと、生きていたから。

勘違いしないで欲しい。

別に死んだのだつて覚えているし、神様に会つたわけでもない。なのに、俺は生きている。

続に言う転生と言う奴らしい。

正直なんでしたかなんて知らないこれから先、知ることもないだろ。

別にかまわないが。

正直当時は、残した家族のことを心配したが、今ではもう、合つ事が出来ないと、割り切つている。

親友がいて、悪友ができ一部の事以外は普通の高校生活を送れているからな。

さて、そろそろ学校に行く準備をしますか。

火紫竜夜ひじつりや 16歳 武偵校所属

元気にやっています。

? 弾（前書き）

良ければ感想などをください。
励みになるんで。

ではどうぞ。

?
弾

俺が朝起きて学校に行く準備をしていると

……ピン、ポーン

と玄関のベルが鳴った

この時間で来るのは一人しかいないでその人間の目的の奴は現在俺の2段ベットの下で熟睡してやがる。……トランクス1丁で……

「おひきんじ起きり

とルームメイトで親友の遠山キンジを俺は優しくストレートを一発入れて起こしてやった。

「ぐつは

と皿を開いて起きるキンジ

うんこことをした。

「た、竜夜、どうこうもりなんだ」

「白雪は俺がビリビリかするからとヒトと服を着い

「へつ……すまん助かるー！」

と、ようやく自分の状態に気が付いたのか着替えた始めたキンジを確認して俺は玄関で待つ人のもとに向かった。

玄関の扉を開くと案の定いた。

星伽白雪、俺の通り武偵高の生徒会長でその他複数の部長をしているある意味すごい奴だ

「あ、キン……竜夜君か」

あからさまに落ち込むことはないだろ。ちなみにキンジの幼馴染でキンジに惚れている

「悪いなキンジじゃなくて、まああがれよ」

と白雪を中心に招き入れる。

と同時にワイヤーシャツはおり制服のズボンをはいたキンジが部屋から出た。

「キンちゃんー。」

キンジの姿を確認して白雪は、ぱあっと顔を明るくした。やつぱり俺の時と反応が違うなあ、慣れたが

「私の呼び方やめりつて言つたら

キンジやつぱり俺はお前を殴りたい

白雪はその後一人でいろいろ言つて見る間に蒼白になつていった。そして俺は

「だまれリア中」

「違つ！？」

キンジが何か言つてゐるが無視だ無視！

「とつあえず白雪何か用があつて来たんじゃないのか？」

と、思い出したよう

「う、うん昨日まで伊勢神宮で宿泊で行つて……キンちゃんのお世話、なんにもできなかつたから

まあ、とつあえず

「とつあえず俺はもうこくわ

おじやま虫は退散しますか

「ちよ竜夜！！」

キンジが後ろで何かいつてゐるが気にせず俺は武偵校に向かつた

込み合うバスが嫌で俺はいつも歩いてかバイクで登校しているが今日はガソリンが後わずかなので歩いて登校することにした。
武偵高に向かう道をコンビニで買ったおにぎりを食いながら俺はふとこの世界に来て17年たつたんだと思つた

この世界には武偵と言つ物たちがいる。

俺の親友であるキンジから言わせれば便利屋だそつだが。

武偵にも色々あり強襲科、^{アサルト}スナイプ科、^{レザト}狙撃科、^{ダキュラ}諜報科、^{コネクト}尋問科、^{インフォ}通信科、情報科

ルマ

科、^{インケスター}探偵科、^{レビア}鑑識科、^{アムド}装備科、^{ロジ}車輌科、^{メデイカ}衛生科、^{アシビコラス}検査研究科（S S R）特殊検査研究科（C V R）、^{マスター}救護科、^{ノルマーレ}教務科、^{超能力}一般教科などがある。

ちなみに俺は強襲科でSランクだ。

ランクはAから始まりA、B、C、D、EでAが一番強くAより強いものがSランクになる。

キンジは入学時は強襲科でSランクだったが今は探偵科のEランクだ。

能力を使えばあいつ（キンジ）はSランクにもなれるんだが発動条件が条件だし、まあキンジにも色々あってそれが関係しているんだが。

強襲科は命の危険が多いのがその分いろんな任務がある。

俺は探偵科でもSランクで実際に殺人事件を解いたりもしているんだがやっぱり本業は強襲科だが。

一応鍛えてるおかげで剣術に関しては負けたことがないしSEEDを発動したらチートって言える、まあキンジもあれを発動したら同じようなもんだが

と考えていたらいつの間にか武偵高についていた

俺はこの時知らなかつたが今日から完全なる非日常になることになる将来「緋弾のアリア」と呼ばれる事になる神崎・H・アリアと俺の親友である遠山キンジの会合の日だとは思いもしなかつた。

? 弾（後書き）

楽しめましたか？
次回は明日にはあるつもりです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9123y/>

緋弾のアリア ダブルS

2011年11月27日11時56分発行